

散歩道

加西市人権啓発だより
加西市地域部人権推進課
加西市北条町横尾 1000 番地
☎ 0790-42-8727

第26号



人権って、何だろう？

「人権」とは、誰もが「幸せ」に生きていくために必要不可欠なものです。難しいものではなく、私たちの身近にあるものです。日常生活にある人権に関心を持ち、「自分ごと」として考え、正しく知っていくことが、人権意識を高め、私たちの幸せにつながります。

無意識のうちに「偏見」でものを見てしまうことは、偏った判断や意見となってしまいます。

適切な人間関係を築いてお互いが幸せな生活を送るためには、始めから決めつけるのではなく、人そのものをきちんと見つめ、認め合うことが大切です。

来年度の人権テーマは、「ネット社会における部落差別と人権 ～誰もが一人の人間として尊重される社会の実現をめざして～」です。一人ひとりの人権が守られる住みよいまちづくりを考えていきましょう。

種をまこう 種をまこう
 種をまこう 種をまこう
 種をまこう 種をまこう
 わたしのこころ あなたのこころ
 みんなのこころに 種をまこう
 生まれればかりのやわらかいこころ
 「人権」という名の種をまこう
 そっす
 「思いやり」という名の水と
 「愛」という名の栄養を
 たっぴりたっぴり そっすはあーん
 みんなの「笑顔」という名の陽をあびて
 きっさ 芽が出る 花が咲く
 やがて
 大きな幸せの実が みる



トピックス



フィルムフォーラム

令和5(2023)年12月4日(月)・5日(火) 於：市民会館小ホール

例年、12月の人権週間に、公民館活動の教室、サークルなどに参加されている皆さんを対象とした人権学習会「フィルムフォーラム」を開催しています。公民館活動に参加されている方々ですので、他の人権啓発事業とは違った層の住民の方々が参加されます。テーマに沿った推奨啓発ビデオを観て、人権意識を深める内容となっています。



©大阪市民政局資料

本年度、兵庫県ではLGBT等の「多様性を認め合う」について取り上げ、「バースデー」というDVDを使って啓発活動を行ってきました。今回のフィルムフォーラムでは、テーマを「誰もが自分らしく生きられる社会を」とし、啓発ドラマ「バスケ少年の秘密」などを視聴し学習を深めてもらいました。

人権研修会

農林水産技術総合センター 企業人権研修会

令和5年12月8日(金) 県立農林水産技術総合センターにて実施

各地区での住民学習会だけでなく、企業や公民館など様々な場で、研修の機会を設けています。

「人権尊重のまちづくり条例」が施行され、誰もが尊重される社会づくりのため、一人一人が人権意識を高める機会を積極的に持ちたいものです。

企業様から研修のご要望があれば、対応させていただきます。
人権推進課までお声がけください。



主な人権啓発事業



人権映画鑑賞会

“今年度は、2回鑑賞会を実施し、多くの方にお越しいただきました。”

(1) 『ケアニン』 ～ここに咲く花～

令和5年12月10日(日) “アスティアかさい多目的ホール” にて上映しました。

小規模施設から大型の特別養護老人ホームに転職した介護福祉士。効率やリスク管理を優先する運営方法に戸惑いながらも、認知症の利用者のために奔走するが、職場のチームワークを乱していると叱責されてしまう。そんな折、利用者の家族の「願い」を知り、周囲の協力を得ながらその実現に向かう姿が描かれている。働くことの意味や、人と人、地域との繋がりやの尊さについて考えさせられる内容でした。

《参加者アンケート》※多くのご感想をいただきました。その一部を掲載いたします。

○できない理由ではなく、できる方法を探すという言葉がとても印象に残りました。いろんな場面で当てはまると思うので、私もその気持ちを大切にしたいです。

○「認知症は、不便だが不幸ではない。」という言葉が改めて感じた。十数年前、父が認知症になったが、世話をする側の大変さばかりを思い、父の心を思いやることができていなかったことを、今になっては痛感するのみです。

○人を支える喜び、支えられる喜び、「ありがとう」という感謝の気持ちが大切だと感じる映画でした。相手の立場を考えて行動することが大切だと思いました。

○相手を思いやり、寄り添っていく大切さに改めて気づかされました。心がほっこりしました。

(2) 『梅切らぬバカ』

令和6年2月3日(土) 「図書館」とコラボし、“アスティアかさい多目的ホール” にて上映しました。

身近な人権問題

人権にかかわる身近な話題を提供します



“マイクロアグレッション”(自覚なき差別)とは？

無意識の偏見や思い込み(アンコンシャス・バイアス)が、言葉や態度に現れ、否定的なメッセージとなって伝わり、意図せず誰かを傷つけてしまうことを言います。多くは日常の中の些細な言動であり、「自覚なき差別」とも言われています。

一例として…日本に住んでいる外国人(に見える人) に対して、「日本語上手ですね」「お箸使えるのすごい」等と褒める。

※一見外国から来たような人でも、もう長く日本に住んでいるかもしれないし、外国語よりも日本語の方が得意かもしれない。見た目で見断し、話せないだろう、使えないだろうという偏見を持って接することが問題なのである。

マイクロアグレッションは「差別」の一種ですが、発言した本人には、悪意があるわけでもなく、否定的な言動をしているという意識はありません。むしろ褒めているつもりだったり、何気なく聞き流してしまうような言葉でもあります。ただ、そのような言動が、『誰かを傷つけたり、ストレスを与えることがある』ということへの想像力を持つ必要性はあります。

マイクロアグレッションを起こさないための重要なポイントは、誰であろうと他者を尊重し、相手に対する想像力と共感力を持って接すること、そして相手の話に心から耳を傾けることです。自覚なき差別により、他者を傷つけないために…。

☆上方落語の三代目「桂小春團治」さんが、ナビゲータをつとめている動画がありますので、ぜひご覧ください。

『“知ってはりまっか？” マイクロアグレッション』 <https://www.youtube.com/watch?v=qdeqpOaCBX8>

※人権啓発の各事業等は、加西市ホームページに掲載しています。(トップページ→「市政」→「まちづくり」→「人権」へ)

※表題「散歩道」という名称は、平成13(2001)年度まで人権啓発冊子で使用されていました。